様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日　2024 年　1 月　16 日

１．職名・氏名　　准教授・池本　裕行

２．学位　　学位　博士、専門分野　農学、授与機関　京都大学、授与年　2013 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 日本経済史　（4 単位）　2 年生
②内容・ねらい 江戸時代から現代までの日本経済の歴史と特色について講義を行うことで、その基礎的な歴史過程を説明できるようになるとともに、日本経済を長期的（歴史的）視点で考える姿勢を身につけることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、事前にその内容を記したレジュメを配布したが、昨年度までと同じく、集中して説明を聞くことができるように、空欄は設けなかった。レジュメについては、印刷する時間・環境がないとの要望を受け、PDF とともに印刷したものを配布することとした。毎回講義の最後に時間をとって課した出席レポートは、翌週までに確認し、翌週の講義冒頭で優れたレポートを紹介したうえで、ポイントの説明や質問への回答を行った。また、日本経済史への関心を高めてもらうために、庶民の生活や環境と経済の関係のように身近なテーマを扱う回や、ゲスト講師や特任講師に講義をしていただく回を設けた。 【ゲストスピーカー　2 人】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎ゼミ（2 単位）　2 年生
②内容・ねらい 入門レベルの文献の輪読を行い、大学での今後の学習において必要となる、本や資料からレジュメを作成し、発表するスキルの習得や、歴史研究の方法論について理解を深めることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストの輪読では毎回報告担当者を決めてレジュメを作成することにしたが、その際には丸写しにならないように、またレジュメ作成の経験がほとんどないことを踏まえて、分量の上限を定めた。さらに、各自にまとめ方やレイアウト等の改善点を指摘した。テキストの 1 つとして、歴史研究の基礎を扱ったものをとり上げ、史料の性質や史料調査、歴史研究の方法論に対する理解を促進した。さらに、地元である福井の歴史に対する理解を深めるために、DVD も教材として併用した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 外書講読（2 単位）　2 年生
②内容・ねらい 日本経済史に関するテキストを分担して輪読を行い、英語の文章を正確に読んで、理解できるようになることや、日本経済の歴史に関する専門用語を理解できるようになることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
日本史を研究している海外の研究者が執筆したテキストを輪読したため、通常あまり見慣れない使われ方をしている用語が多く出てきた。そのため、文法だけでなく、そうした用語にも注意しつつ和訳を丁寧に確認した上で、内容の補足説明を行うようにした。また、毎回のレジュメに対して、まとめ方やレイアウトの改善点等を指摘した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅰ（4 単位）　3 年生

②内容・ねらい
日本経済史に関するテキストの輪読と、各自の研究テーマに関する報告を行うことで、日本経済の歴史について理解を深めると同時に、先行研究を踏まえて自分の研究テーマを見出すことを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
テキストの輪読では、その丸写しにならないようレジュメの分量について上限を定めたり、報告者以外にも積極的に意見を述べることを促したりして、発表力、表現・発言力の養成を図った。なお、テキストは受講者と相談して決めるようにして、関心を持てるテーマのものを選んだ。また、グループに分かれてテーマを決めて研究を行い、それを 4 年生も参加した報告会で発表することで、研究の流れを実感できるように努めた。その後、自分の関心のあるテーマの文献を読んで報告し、次年度の卒業論文・研究に速やかに取りかかることができるように準備を整えた。
さらに、テキストで学習するだけでなく、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、岡太神社や那谷寺、平泉寺などを見学した。
【フィールドワーク等　3 件】

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅱ（4 単位）　4 年生

②内容・ねらい
「演習Ⅰ」を通じてゼミ生が見出した研究テーマの個別研究報告とテキストの輪読を中心に進め、自らの研究テーマについて、史料調査・分析を行い、卒業論文・研究としてまとめることや、その研究内容を他者にわかりやすい形で発表できるようになることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
ゼミ内で行う卒業研究発表会に向けて、各自の研究テーマについて調査・分析を進め、定期的に進捗状況や新たに調べた内容を報告するようにした。その際、お互いの研究に対して意見を述べることを求め、発表や議論の経験を積めるように心がけた。また、テキストの輪読では、歴史学の最新の研究成果とともに、卒業論文・研究を進める上で役に立つような歴史研究の分析手法を学ぶことができるようなテキストを選んだ。そして、自分の意見を文章化して相手にわかりやすく伝える能力を向上させるために毎回一定量の感想を書くことを求め、それに対してコメントをするということも行った。
さらに、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、岡太神社やゆのくにの森、黒谷観音、犬山城・博物館明治村、彦根城・多賀大社などを見学した。
【フィールドワーク等　6 件】

⑵その他の教育活動

2023 年 10 月、白樫祭においてゼミの有志とともに昭和レトロ展を企画・実施した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】
③その他論文（査読なし） 【0 本】
④学会発表等 【0 件】
⑤その他の公表実績 ・（書評）萬代悠『近世畿内の豪農経営と藩政』 池本裕行『社会経済史学』第 88 巻第 1 号、2022 年 5 月 【1 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ・科研費（若手研究 B） 研究課題：「近世日本社会における死亡構造の地域差に関する研究」（課題番号：17K18216） 2017～2023 年度、研究代表者：池本裕行

(3)特許等取得

(4)学会活動等
理事（日本農業史学会、2023 年度～現在に至る） 理事（地域公共政策学会、2023 年度～現在に至る）

５．地域・社会貢献活動

⑤白樫祭における昭和レトロ展（2023 年 10 月） 本企画展はゼミの有志と共に実施したが、その際永平寺町教育委員会の協力を得て、同委員会が保管する民具を借りて展示に用いた。

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・入学試験本部（2022 年度～現在に至る） ・1 年生相談担当教員（2022 年度～現在に至る）
(3)学内行事への参加
・高校向け入試説明会 （武生東高校、2023 年 7 月）（足羽高校、2023 年 7 月）（武生高校、2023 年 7 月） （福井商業高校、2023 年 9 月） ・探究アドバイザー （武生東高校、2023 年 3 月）
(4)その他、自発的活動など
・白樫祭における昭和レトロ展（2023 年 10 月）